

スポーツパフォーマンス研究カンファレンス(SPERC)からのメッセージ

はじめに

鹿屋体育大学では、2012年から「スポーツパフォーマンス研究」への投稿を目指しての勉強会「スポーツパフォーマンス研究カンファレンス(Sports Performance Research Conference, SPERC)」を開催している。SPERCは週1回、1時間程度の時間を設け、教員、大学院生、研究員など多様な立場からスポーツパフォーマンス研究への投稿を目指すテーマについて発表し、ディスカッションを行っている。2018年10月現在、開催回数は160回を超え、多くのテーマがスポーツパフォーマンス研究への投稿を果たした。(SPERCの詳細については以下を参照。http://sports-performance.jp/sperc.php)

今年のeditorialはこの「SPERC」でこれまでに発表されたものおよびそこでのディスカッションを経て、今後の「スポーツパフォーマンス研究」の発展のためのヒントになるであろう論考を取り上げた。

現編集委員長の高橋からは、本誌への投稿ならびに査読にあたって検討すべき心構えについて、現副編集委員長の金高先生には、本誌に投稿する論文の具体的な書き方に関する課題と解決法、鹿屋体育大学の新進気鋭の研究者である永原先生には近年の、また国際的な実践研究の事例をおまとめいただいた。さらに、継続してSPERCに参加している3名の大学院生からは、SPERCで学んだこと、自身の論文作成および論文投稿の経験から感じたこと、今後のスポーツパフォーマンス研究(学会)に向けての意見や決意表明など、自由な発想で投稿をいただいた。

2018年10月には、市村出版から「体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方」(福永哲夫・山本正嘉編著)が発刊された。同書と合わせてこのeditorialをお読みいただくことで、読者の皆さんにとって今後のスポーツパフォーマンス研究の実践ならびに論文をまとめていくためのエッセンスとなるものと確信している。

2019年3月

スポーツパフォーマンス研究編集委員長

高橋仁大

著者とテーマ

1. 高橋仁大 スポーツパフォーマンス研究への投稿ならびに本誌での査読にあたっての心構えに関する私論
2. 金高宏文 体育・スポーツの実践と実践知の可視化を考える:フレームワークの重要性とその例
3. 永原 隆 近年の実践研究で国際的に用いられる分析方法の例
4. 梶ちか子 大学体育授業における実践研究の考え方の提案ー筆者が博士論文で取り組んだ、大学体育の授業研究における実践研究からー
5. 田中耕作 SPERCに参加することで得たもの
6. 山口大貴 競技スポーツにおける実践研究の進め方ー私が経験した「単一事例研究」と「実証研究」を振り返るー